



【上】静岡の塚本さん（前列左端）と畑。
【右】青森の山田さん（左）と矢口さん。



●金丸弘美

かなまる・ひろみ／食環境ジャーナリスト。1952年生まれ。執筆活動のほか食のアドバイザー事業を手がける。著書に『地域ブランドを引き出すカーポート・マネージメントが田舎を変える』（合同出版）、『田舎力 ヒト・夢・カネが集まる5つの法則』（NHK生活人新書）など多数。

19 新規就農者をサポートする

(株)野菜くらぶ

群 馬県にある(株)野菜くらぶ（代表・澤浦彰治さん）は注目の農業団体だ。

同県昭和村の農家を中心に生まれた会社で、参加農家は58人。レタス、トマト、ほうれん草、小松菜、トウモロコシなどを栽培。スーパー、生協、食品会社などに直接販売する。グループの年商は20億円。参加農家の売り上げは、最低で1000万円、最高だと1億円を超える。中心となっているのは40代だ。

注目を集めているのが新規就農での独立。農業をしたいという人の夢をかなえ、新しい仲間を作るのが目的。それと夏場のレタスが弱いことから、気候の違う青森で栽培を行え

ば、会社全体での安定取引が生まれ、という発想から始まった。

新規就農者は、取引先が必要としてレタスやトマトをメインに研修をしてもらう。独立資金は150万円から200万円。これに会社が出資する。これを基に、さらに会社が保証人となり、資金と農地を借り受ける。販売先は会社が引き受けるというものだ。

これまで10人が研修をし、6人が独立した。

最初の独立を青森で果たしたのは神奈川県藤沢市出身の山田広治さん。大学卒業後、海外での農業体験を経て、野菜くらぶの農家での研修を受けて農業を始めた。10年前である。

1年目で1700万円を売り上げ、現在は3500万円。結婚も子どもも3人生まれた。自らの農地も7haを購入し、レタスやキャベツを販売する。

「販売先が確保されているし、野菜くらぶのメンバーが常に情報をくれる。ときどき現地に足を運んでくれるから安心してできます」と言う。

今後は、野菜が栽培できない冬場での加工を手掛けたという。

最近、山田さんの近くで農業を始めたのは矢口岳夫さん。彼は一般の

会社勤めのあと、野菜くらぶを知って研修を受けて独立した。現在2年目で1500万円を売り上げる。

青森の実践事例ができ、新たに静岡県菊川市で2人が独立した。

深川知久さんは31歳。北海道の大学を経て一般の企業に就職したのち、農業に魅せられて独立。2年目である。レタスを中心にサニーレタス、枝豆、トウモロコシなど13・5haを栽培する。売り上げは3900万円。3人を雇って経営している。

もう一人、静岡での独立農家は、塚本佳子さん（40歳）だ。日大農学部を出て、青年海外協力隊で海外で働き、帰国後、法人で農業を経験、さらに沖縄・宮古島で農業を体験した。

その後、野菜くらぶの独立支援プログラムに参加。3年目である。キャベツ、レタスなどを中心に9・5haで栽培。3人を雇用している。売り上げは6000万円である。

「1から10まで、すべてが面白い。やりがいがある。キャベツ栽培をしているが、新たに他の品目にも挑戦してみたい」と言う。

お会いしたどのメンバーも喜びがあふれていた。野菜くらぶの新規就農の仕組みは、今後の農業の新しい形の明るい希望だ。